

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホーム 愛生 5F		
所在地	熊本県人吉市二日町22番地		
自己評価作成日	平成24年1月7日	評価結果市町村受理日	平成24年03月05日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成24年 1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人吉中心部の病院建物4階・5階を利用し造られたグループホームは、日本三大急流のひとつ球磨川や市内を一望できる。人吉は四季折々見物する所も多く、季節を肌で感じる外出ができる。施設内においては、学習療法を取り入れ認知症の進行予防に努めている。母体病院や系列施設等直結している為、健康診断をはじめ、訪問看護ステーションとの連携にて常に利用者様の体調管理を行い、緊急時など速やかに対応を行っている。又、そのことで、家族にも安心していただけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は4階と5階に設けられており、窓からは利用者がこれまで慣れ親しんで来た風光明媚な人吉市内を一望することが出来るという恵まれた環境にありました。室内も明るく、温かい雰囲気、利用者の穏やかな表情が印象的でした。この事業所は、事業主体が病院ということで訪問看護ステーションとの連携により、夜間の往診や緊急時の速やかな対応など、利用者本人・家族からも支持を得ている。また、学習療法を取り入れ、認知症進行の予防にも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝、全体の申し送り時に理念を復唱することで、確認を新たにし、現場に活かせるように努めている。	事業所は「尊敬」「自立支援」「共生」という基本理念を掲げ、見やすい場所に掲示している。また毎週月曜日の朝には、唱和を行い、初心に立ち帰り実践に活かすことができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	人吉市のおくunch祭りや、産業祭・文化祭などの参加。ボランティアスクールの受け入れ、また散髪などは、できるだけ地域の理髪店へ出かけるようにしている。	運営推進会議への町内会長や老人会会長の出席、また人吉市が行なうイベントや行事などへの参加、ボランティアスクールの受け入れ等々、事業所は機会を見つけては、地域との交流に取り組んでいる。	今後、清掃活動やリサイクル活動など、より日常的な交流にも取り組み、地域とのつながりを深めて欲しいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現場を回すのが精一杯の状況。出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の現状報告や取組については、報告させていただき、ご意見等あれば、今後の取組に活かしている。	2ヶ月に1回行われている。出席者は市の担当者、町内会長、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員等である。そこでは、利用者の現状、事業所の取り組みなどについて報告したり、意見を頂く機会としている。	現状のところ、利用者家族の出席がないようであり、家族への働きかけを行ってほしいと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時や会議終了後などで市担当者と情報交換を行っている。また、介護更新申請時にも、何かあれば相談をしている。	運営推進会議にも市の担当者が出席しており、関係作りには力を入れている。また、介護更新申請時や判断に困った時などは相談を行っているが、親身に対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に参加し、知識を深め、問題行動があったとしても、どうすれば見守りができるかなどを日々検討している。	身体拘束に関するマニュアルも備えている。内部研修会は勿論、外部研修や年6回行われるブロックでの勉強会でも知識を深め、実践できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にて知識を深めると共に一人で問題を抱え込まないように取り組んでいる。		

事業所名:グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に日常生活自立支援事業や青年後見制度を利用しておられるので、事業の取組については理解し、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解や納得を頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口は設けているが、相談等は、ほとんどない状態。家族が面会に来られた時も、要望等聞かれず。	相談窓口の明示や第3者苦情処理機関のポスターも掲示し、忌憚のない意見や要望の収集に取り組んでいる。今のところ、取り立てて意見や要望が寄せられていない。	利用者や家族からは意見や要望は言いにくいものです。これからも慢心することなく、意見や要望の出しやすい環境作りに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議でいろんな意見を出してもらっている。また意見が出ないときなどは、こちらから問いかけて意見を聞くようにしている。	職員会議では、意見の言いやすい雰囲気作りに努めている。また実際活発な意見が出ているということである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に参加させていただき、自己研鑽に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会などに参加をし、意見交換を行なうと共にサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様に、要望や気持ちなどを聞き、不安なく過ごされるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や契約時いろいろな家族からの情報や要望等を聞き、対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番大切なことであると思います。当然最優先して取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしていただき、自立を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りの中にも利用者様の状態などを報告させていただき、行事等のときなど呼びかけをして、家族の関わりを持つようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在出来ていない。	現在、習い事や趣味を継続してやっている利用者はおられないが、馴染みの美容院に通われる方が3名おられる。また恒例の初詣では、混雑を避けて支援している。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のときなど、合わない人同士を同席せず、又孤立しないように声かけ等随時行っている。		

事業所名:グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームへ生花に來られたり、退去後も交流は続いている。また施設行事等でも案内を行い交流を深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望は、受け止めるようにしているものの本人様も色々意見が変化し対応に苦慮する時もある。	本人や家族からの聞き取りを行ない、出来るだけ思いや意向に沿った支援が出来るよう心掛けている。また、日々のかかわりの中でもアンテナをはり、行動や表情の中からも思いや希望が見つけれないか取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者との話し合いのもと介護計画を作成している。	本人・家族・看護師も交えて話し合っている。必要な場合は、医師や理学療法士等の意見も仰ぎながら、現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変わる利用者様の状態をしっかり捉え、ケース記録や申し送りノート等を利用し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆様高齢なので体の変化が著しく、その変化に対して対応できるように努めている。		

事業所名:グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり出来ていない。利用者様も高齢になり、なかなか難しい所もあるが、一人ひとりの状態を把握し、取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、本人様の状態を、家族へ連絡し家族の希望などを得て、受診を行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。今現在は、利用者全員が同法人の医療機関をかかりつけ医としている。歯科診療については、原則家族の対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の様子については、訪問看護へ連絡して、対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	着替えを取りに行ったりする時など常に状態を聞いたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族とは看取り指針に基づき同意を取って終末期の対応を行っている。	重度化について、まずは訪問看護師との連携を密にしている。必要な場合は、夜間往診も可能であり、緊急な場合は救急搬送の対応を取っている。看取りについてはマニュアルを作成しているが、医師と家族との話し合いを行なって理解が得られれば、支援を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署等で行われる救急救命法の講習や院内研修でも心肺蘇生法などの研修を行い、事故発生時に備え対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、問題点などを話し合いながらより効率の良い方法を探している。地域の協力体制は確認できていない。	避難訓練は年2回行っており、うち1回は夜間を想定したものである。事業所が4階と5階にあるので、ベランダ避難を考えた訓練となっているが、管理者は警報ベルの利用者への影響を心配している。	地域の協力体制作りや、食糧や水の備蓄についても今後の課題として取り組んで欲しいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに関しては、常に注意を促している。プライバシーの確保についても各自、自覚出来るように研修などをおこなっている、	月に1回は接遇や言葉使いに関する研修会を行なっている。その時、出席できない職員に対しては文書にて徹底をはかっている。また、プライバシーの確保については、契約時に同意書を取り交わしており、職員全員でプライバシーの保護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	廊下を歩いていいですか、食器を洗いましょうかとか尋ねてこられる事があり、お願いしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたいと思っているが、現状は厳しい。施設業務優先になってしまう事が多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝る時はパジャマで到着替えをしていただいている。また、同じ服にならないように心がけている。髪の毛など伸びてきたときは、美容室へ出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根とりや台拭き、茶碗洗いなどスタッフと一緒にいただいている。	現在、調理に参加している利用者はおられない。楽しく食事ができるように、唱歌や民謡等のBGMを流している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスなどは管理栄養士のもとでメニューを作成して、それを提供している。水分量は毎食後とおやつ時にチェックシートに記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯を磨ける人は磨いていただき、出来ない方は職員が磨き、うがいをさせていただいたり、全介助の方などは、ガーゼなどで拭いている。		

事業所名:グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを見ながら、時間を決めて誘導し、パッドが出来るだけ濡れないように努めている。	排泄チェック表を作成し、時間を決めて誘導したり、また一人一人の排泄パターンや特徴をつかみ、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分はチェックシートで確認しながら摂っていただくようにしている。運動も声かけを行っているが車椅子などの方は腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間や曜日などはある程度決めてあるが、利用者様の状態に合わせて提供している。	入浴回数は夏が週6回、冬が隔日で週3~4回を予定している。時間は、9:30~10:30と10:30~11:30が介助を必要な人となっている。利用者のその日の体調や希望に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方など時間を見てベッドに横になっていただいている。又不安があり眠れない場合などは、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量については、確認をしており、又状態変化などあった場合は訪問看護へ連絡をし指示を仰ぎ、受診等必要になれば受診し薬の変更あれば対応するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出などは行っているが、少ない。今後は、外出やレクリエーションの充実を図りたいと考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からは「何処に行きたい」等の希望は聞かれない為、施設側から季節ごとのバスハイク等を行っている。	事業所では、季節ごとの外出支援計画書を作成している。また、市のイベントや行事には出来るだけ参加するようにしているが、体力等を考慮し、時間を考え、効率的な支援に心掛けている。	外出希望が少ないようであるが、恵まれた環境もすぐ近くにあり、また地域の人々との交流の面からも支援の方法を考えて欲しいと思います。

事業所名:グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設側で管理しており、お金の所持や使うことの支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話等があれば取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけなどを行っている。また、唱歌や民謡などを流している。台所が近い為に料理のにおい等がして、利用者様の食欲なども促している。	事業所は5階にあり、4階同様明るくゆったりとした雰囲気に包まれていました。壁面の飾り付けや生け花、また唱歌や民謡が流れ、利用者の落ち着いた様子が印象的でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では皆様それぞれに話などされていますが、一人になられる場合は居室へ行かれて、日向ぼっこなどされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や思い出の品を持って来ておられる利用者様もいらっしゃいますが、何にも置かれていない利用者様もいらっしゃいます。それぞれに対応をしています。	4階同様ベッドは備え付けられている。家具や調度品等は、利用者それぞれに対応されており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、手すりをつけて歩きやすいようにしている。又トイレや歯磨き、居室等は表示をしている。		